

財 政 事 情

「もったいない」で拓く滋賀の未来



平成19年（2007年）5月

滋 賀 県

滋賀県の姿

(内の順位は、全都道府県中数値の大きい方からの順位です。)

総面積 4,017.36 k m² **38位**

(うち琵琶湖の面積 670.25 k m²)

*H18.10.1 国土地理院

(滋賀県の総面積は総務省統計局)

市町数 13市13町 (H18.3.20~)

人口 1,380,361人 (H17.10.1現在)

31位

増加率 2.8% (対H12.10.1現在)

5位

世帯数 479,217世帯 (H17.10.1現在)

32位

増加率 8.8% (対H12.10.1現在)

2位

一般世帯平均人員 2.85人 (H17.10.1現在)

(3.02人 (H12.10.1現在))

*人口、世帯数は総務省統計局「国勢調査」

県民所得 323.5万円 (県民1人当たり)

4位

*内閣府「平成16年度県民経済計算」

実質経済成長率 0.9% (県内総支出(実質)へ-入)

32位

*内閣府「平成15年度県民経済計算年報」

県内総生産における第2次産業の占める割合 46.5%

1位

*内閣府「平成15年度県民経済計算年報」

表紙の絵

「五月の風景」(野口謙蔵・昭和9年制作)

滋賀県立近代美術館所蔵

野口謙蔵(のぐち・けんぞう)は、滋賀県蒲生郡桜川村(現東近江市)に生まれ、生涯故郷蒲生野の自然や人々の暮らしなどを、愛情込めて描き続けた滋賀県を代表する洋画家です。この作品をみとみますと、当時の蒲生野の風景が独特のタッチで描かれています。黒々とした大地が麦の青々とした緑で覆われた中に、葱坊主が愛らしく描かれ、また大地と青空の間には村の集落が描かれ、鯉のぼりも上がっています。視点を低く取って奥行きを表現しており、また色彩は寒色系を基本に、青と緑の色彩によって画面を上下にうまく二分しています。謙蔵の作風が移り変わる過渡期にあつて、大胆な色面による表現を用いて雄大な風景画に仕上げた優作です。